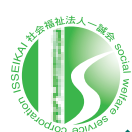


# ISSEIKAI



社会福祉法人一誠会

Green Days 134 th

特別号

偕楽園ホーム創立 45 周年記念

Column 1

## 八王子市・初宿市長より大川センター長 に功労表彰と感謝状

一誠会が八王子市より受託されている八王子市高齢者在宅サービスセンター中野のセンター長・大川富美が、長年にわたり民生委員推薦会委員および介護認定審査会委員を務めた功績により、八王子市から行政功労表彰と感謝状を授与されました。



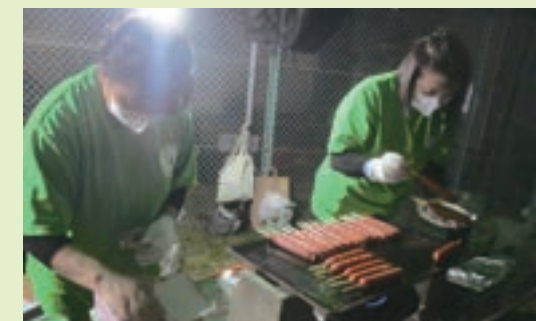
市長(写真 左)から表彰を受ける大川センター長。  
行政と介護現場をつなぐ長年の尽力への評価です

Column 2

## 若松神社例大祭

去る、9月27日(土)、28日(日)で、偕楽園ホームのある宮下町の氏神様である若松神社で例大祭が執り行われました。

宵宮では、一誠会で屋台を出し、本宮では山車の曳きまわしやお神輿の担ぎ手として職員が参加しました。ご利用者にとっても地域の参加、交流の機会になりました。



一誠会の事務員も大活躍！屋台ではフランクフルトとチョコスを販売し、大好評でした

## Event イベントスケジュール (12月・1月の一誠会からのお知らせ)

◆行事の開催予定 ※各事業所から、別途、詳細をご案内いたします。

●クリスマス会	令和7年12月20日(土)	偕楽園ホーム	●餅つき大会	令和8年1月10日(土)	会場：初音の杜
	令和8年1月5日(月)	八王子市高齢者在宅サービスセンター中野			
●新年会	令和8年1月7日(水)	第二偕楽園ホーム看護小規模多機能型居宅介護			
	令和8年1月10日(土)	初音の杜			

## ◆地域交流会(万講座)の開催◆

日時	令和7年12月13日(土)	令和8年1月10日(土)
内容	「看取り介護 施設で看取ること 在宅で看取ること」	「困ったときのための介護保険 制度がわかる話」
講師	社会福祉法人一誠会 偕楽園ホーム 施設長 鷹野賢一	居宅介護支援事業所介護サービス ほのか 介護支援専門員 齋藤健一
場所	偕楽園ホーム	偕楽園ホーム
時間	14時00分～15時30分	14時00分～15時30分

本会主催の行事や講座については、新型コロナウイルスの影響拡大に鑑み、開催を延期や中止させていただくことがあります。また、お申込みいただいた皆様には、延期後日程が決定次第、別途ご案内させていただきます。なお、感染症予防対策としてご来訪の皆様には検温などご協力いただくこともご了承ください。

社会福祉法人 一誠会

<https://www.kairakuenhome.or.jp>

ISO9001 認証取得



苦情対応マネジメントシステム

## 職員募集中!

現在一誠会では、職員募集を行っています。募集中の職種や、待遇などは下記のQRコードからご覧ください。

また、一誠会のウェブサイト、SNSは左記のQRコードからどうぞ。

採用情報



一誠会 WEB



Facebook



(旧) Twitter



Instagram



YouTube



アメイバーブログ





# 偕楽園ホーム創設45周年寄稿文

## 『我が人生を振り返り』

社会福祉法人 一誠会 参与  
文：新谷 義克

### 函館に生まれ

― 人生の原風景 ―

私は今年で満九十三歳になり、最近では心身共に老化を感じずるようになりました。

この際、一誠会を設立した者として、私の人となり皆様様に知っていただくのも意義があるのではないかと思います、記すことにしました。

私は、北海道の函館で網元をしていた父親の長男として三人の姉とともに、網元の跡取りとして大事に育てられました。

父は、函館高等水産学校（北大水産学部の前身）を卒業した当時のインテリで、教育に大変理解のある人でした。



新谷氏が幼い頃の函館駅前大門通(昭和15年)  
※函館市中央図書館所蔵



### しんやよしみ

1932年、北海道函館市出身。  
56年、早稲田大学法学部卒業。  
60年、東邦大学医学部卒業。  
61年、東京警察病院外科入局。  
69年、東京都府中市に新谷医院を開院。

80年、特別養護老人ホーム偕楽園ホームを八王子市に開設。新谷医院院長、一誠会理事長、五常会理事長、戸井福祉会理事長を歴任。はこだて観光大使に就き、現在に至る。

当時は本州のことを内地と呼び、東京に行くには函館から四時間半かけて青函連絡船で青森まで渡り、そこからモクモクと煙を吐く機関車で上野まで行くという一日がかりの行程でした（現在は飛行機で一時間半ほどですが）。

そのような中で、長姉の山本久子が明治大学法学部女子部（当時共学ではなかった）に進学したのはとても珍しく、私も小学生の頃より函館師範学校（北大の前身）の学生の家庭教師をつけてもらっていました。

その後、次第に日本は軍国化し厳しい世相となっていました。米は配給制となり、ご飯も十分に食べられず、芋や豆を代用食として飢えをしのいでいた時代です。そして、私が中学一年生の時には、大東

亜戦争が終戦を迎えると同時に父が四十二歳で当時の国民病といわれた肺結核で亡くなりました。終戦直後は、鬼畜米英として敵だったアメリカ兵が武装をして市内を巡回し、日本の警察は全く無力状態となり、あらゆる物事の価値観は一変してしまいました。

そのような混乱した時代に中学二年・三年生を過ごした私は、所謂不良少年になり、交番に一晚留置されたこともありました。

銀行預金も凍結され、母親は夫の死と経済的な不安と息子の不良化で、大変な苦勞を強いられました。と思います。

### 学生時代

― 高校は一年毎に違う学校へ ―  
その後、旧制中学三年生から四年生になる時に学校の制度が変わり、全員が新制の函



新谷氏が1年生時に在籍した帯広柏葉高校(当時)

館東高校一年生に移行しましたが、私は退学処分となり、函館から当時汽車で四時間の帯広の知人を頼ってようやく帯広柏葉高校の一年生に編入することができました。

転入後の高校では、悪ガキは恰好を見ると分かるのか柔道部やラグビー部から呼び出されては暴力を受ける辛い日々で、毎日のように母に手紙を書いていました。



新谷氏が2年生時に在籍した函館中部高校(当時)  
※函館市中央図書館所蔵

母のお陰で、二年生に進学する時には函館に戻ることができましたが、一年前に退学になった函館東高校には戻れず函館中部高校に編入し、それから真面目に勉学に励むようになりました。

その後、三年生に進学する時には学区制の変更により、今度は当時の住所に近い函館西高校への通学が決まり、高校生活の三年間で毎年異なる三つの高校へ通うという大変



珍しい結果となりました。



新谷氏が3年生時に在籍した函館西高校(当時)

大学理学部一年・二年生をダブって通学し、医学部受験に必要な単位を取りました。

当然ながら両学部とも出席が不十分で、クラスメートにノートを借りて何とか対応していました。当時、東邦大学



新谷氏の母校 早稲田大学



新谷氏が医者を目指して入学した 東邦大学

理学部で一番多くノートを借りた女子学生は薬剤師となり、後に私の妻となりました。その後、医学部を受験をしました。早稲田大学も単位不足で卒業はならず、翌年の再挑戦でようやく東邦大学医学部の合格と早稲田大学法学部も卒業をすることができ、医学部在学中は育英会等の奨学金の援助を受け学業を続けることができました。

卒業後は、東京警察病院の外科に入学し外科医として修業しましたが、麻酔科だけでは麻酔科専門医の資格がなければ標榜できませんので、その間、麻酔科専門医の資格も取りました。

また、外科に在籍中に東京医科歯科大学基礎研究室に入局し、十年かかって医学博士を取得しました。こうして外

科で約十年間修業後、昭和四十四年に府中市で診療所を開業しました。

開業後に、地元の前早稲田大学府中校友会にも入会し、近隣の稲門会との交流なども多く、そこで早稲田大学には医



新谷氏が発起人の一人として立ち上げた 早稲田大学 稲門医師会 (○囲みが新谷氏)

## 医者を目指して

―大学時代は二足のわらじ―  
高校卒業後は、早稲田大学法学部に入学できましたが、以前より医師になりたいとの思いがありました。しかし、法学部の教養課程二年では医学部の受験単位が取れず、三年生になる時に千葉県の東邦大学理学部に入學し、早稲田大学法学部三年・四年生と東邦

学部がないのに新谷さんはお医者さんですか、と度々聞かれ珍しがられました。

また、府中校友会では早稲田大学法学部の一年先輩の小室さん(音楽家の小室哲哉氏の父)が会長、私が副会長のコンビで二十年勤めました。当時は哲哉氏の活動の全盛期で、彼の海外の別荘に我々校友会員も誘われ大いに恩恵を受けました。

平成二十八年には、医学部のない早稲田大学を卒業した後、他大学の医学部へ進学し、医師として活躍している人が集まった、大学公認の稲門医師会を私も発起人の一人として立ち上げました。

現在は、歯科医・薬剤師などを始め二百数十名の会員が稀有な校友会活動をしています。医学部のない大学で大

学公認の医師校友会があるのは世界でも例がないそうです。



早稲田大学 稲門医師会  
↑ 早大鎌田総長    ↑ 新谷氏

## 福祉の世界へ

― 拡がる環 ―

福祉の世界に入った由来は一誠会の四十周年記念誌に披露しました。最初は八王子に一誠会を、次に岐阜に五常会を、そして函館に戸井福祉会を創立し、それぞれを主婦だった三人の姉に資格を取っ



戸井福祉会 潮寿荘  
(北海道 函館市)



一誠会 偕楽園ホーム  
(東京都 八王子市)



五常会 瀬戸の里  
(岐阜県 中津川市)

てもらい、長姉の山本久子に五常会『瀬戸の里』(岐阜県中津川市)、次姉の佐藤園子に一誠会『偕楽園ホーム』(東京都八王子市)、そして三姉の吉井玲子には戸井福祉会『潮寿荘』(北海道函館市)、それぞれの施設長を務めてもらいました。

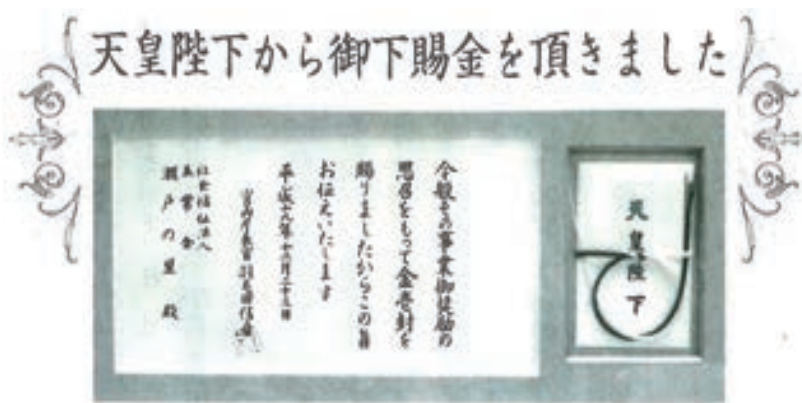


新谷氏の三人の姉  
左から長姉(山本)・二姉(佐藤)・三姉(吉井)

一方では、地元の東京・府中で特養の市立よつや苑の開設時に縁があり、市より一誠会が運営法人として委託を受け十数年運営していました。



また、長姉である五常会の山本前施設長は個人として藍綬褒章と瑞宝章を叙勲していますが、さらに平成十九年に

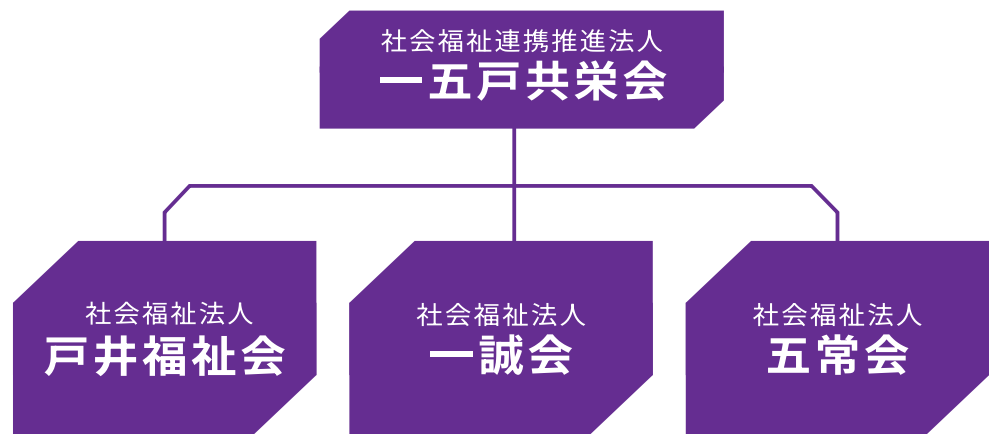


は『瀬戸の里』が優良民間福祉施設として天皇陛下より表彰されました。御下賜金を知事より受け取りに姉とともに岐阜県庁に参りました。大変に名誉なことです。

一個人が、八王子・岐阜・函館と全国の異なる三カ所の地域に、それぞれ独立した社会福祉法人を創設し、全ての法人において理事長を兼任しておりました。

診療所での医師としての努めの他に、各法人の理事会・評議員会への出席や、夏祭りなどの催しに参加するため、多い時には各々の施設へ年に五回ずつほど往復してました。函館へは約三時間、岐阜へは電車や車で約五時間ほどかかり、多忙を極めました。

現在では八王子の一誠会、岐阜の五常会、函館は戸井福



最後に、私の九十三年間を総括しますと、中学で退学処分になった不良少年が今日あるのは、姉三人と私からの毎月のおこづかいを貯めたへそ

くり一千万円を、一誠会に新谷ヒデ基金として寄付をした素晴らしい母がいたからです。

あの母がいなければ今日の私はありません。母に倣って私も基金として法人に寄付する予定です。

九十三年という長い旅を続けてまいりました。旅のゴールまでの道のりが、いたいどれほど残っているのか知る由もありませんが、私は現在までの人生を十二分に生きてまいりました。

これからは限りある時間をのんびりと過ごしながら、一誠会、五常会、戸井福祉会の成長を静かに見守っていきたいと思っています。

皆様には、今しばらくお付き合いのほどよろしくお願いいたします。

社会が、それぞれ現場の職員の努力のお陰で地域福祉に貢献しています。

### 人生(旅)を振り返り

―感謝と共に―

今こうして振り返りますと、大変に稀でかつ厚みのあった人生を歩んできたものだと思っております。

現在は、約二十年勤めた裁判所の民事調停委員と鑑定委



関東ラグビー協会マッチドクターとして(2010年)

員は退任、約三十年続けた日本体育協会公認スポーツドクターと関東ラグビー協会マッチドクターは卒業し、早稲田大学商議員と函館市の観光大使だけは続いています。

なお、八王子の一誠会、岐阜の五常会に続き、函館の戸井福祉会の理事長の職も後進に道を譲るため、バトンを託したところです。

こうして次の世代に引き継いでいくなかで、令和四年十一月には東京都で初となる社会福祉連携推進法人一五戸共栄会(いちごときょうえいかい)本部(八王子市)がこの三人を足掛かりとして発足いたしました。

三法人が共に手を携えながら私の意志を引継ぎ、福祉介護のさらなる発展に寄与してくれることを願ってやみません。

このタベ 力つくせり

法師蟬

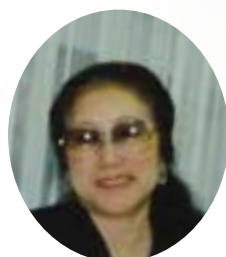
森澄雄



またいとこの東京都知事 小池百合子さん(中央)を囲み、一誠会 鈴木理事長(左)と、新橋の寿司屋にて



## 偕楽園ホーム 歴代施設長一覧



さとう そのこ  
初代施設長 佐藤園子  
1980.3～1991.11  
(昭和55年3月～平成3年11月)



いけだ しげお  
二代目 池田茂雄  
1991.12～1995.1  
(平成3年12月～平成7年1月)



おおえ きしろう  
三代目 大江喜四郎  
1995.2～1996.12  
(平成7年2月～平成8年12月)



こむろ せつこ  
四代目 小室節子  
1996.12～1999.3  
(平成8年12月～平成11年3月)



さとう そのこ  
五代目 佐藤園子  
1999.4～1999.4  
(平成11年4月～平成11年4月)



おおや のぼる  
六代目 大家昇  
1999.5～2005.3  
(平成11年5月～平成17年3月)



さどう やすひこ  
七代目 佐道保彦  
2005.4～2013.12  
(平成17年4月～平成25年12月)



みずの たかお  
八代目 水野敬生  
2014.1～2018.3  
(平成26年1月～平成30年3月)



ほり しげる  
九代目 堀 茂  
2018.4～2021.6  
(平成30年4月～令和3年6月)



たかの けんいち  
十代目 鷹野賢一  
2021.7～2023.6  
(令和3年7月～令和5年6月)



みずの たかお  
十一代目 水野敬生  
2023.7～2024.3  
(令和5年7月～令和6年3月)



たかの けんいち  
十二代目 鷹野賢一  
2024.4～  
(令和6年4月～)



## 感謝を胸に迎える45周年 ～創設の志を胸に未来へ～



社会福祉法人一誠会  
偕楽園ホーム施設長  
鷹野賢一

このたび、偕楽園ホームは開設45年を迎えました。  
この記念すべき日を迎えられましたのも、ひとえに開設以来ご支援・ご協力をいただいた地域の皆様をはじめ、努力を重ねてこられた先人の方々のおかげであると、心より感謝申し上げます。  
本号は、偕楽園ホーム開設45周年の記念号として、創設者・新谷義克先生の特別寄稿文を掲載しております。  
新谷先生からは、かつて「好きになることが上手になることの秘訣」という言葉を頂戴しました。外科医である新谷先生は、仕事を好きになることで技術が向

上するという意味で話されましたが、介護職に置き換えるなら、お年寄りを好きになることで介護の腕が上がるという教えとして受け止めています。  
偕楽園ホームには、お年寄りを思う気持ちをもった職員が多くおります。その思いに加え、世の中や環境の変化をチャンスととらえ、何事にも前向きに挑戦していったほしいと思います。  
結びに、45周年記念号を発行できたことに心より感謝申し上げます。  
これからも50周年に向け、感謝の気持ちを忘れず、歩みを進めてまいります。



## Contents

### 02-07 特別企画

#### 偕楽園ホーム 45 周年寄稿文

『我が人生を振り返り』

社会福祉法人 一誠会 参与 新谷 義克

### 08 トップリレー

社会福祉法人一誠会

偕楽園ホーム 施設長 鷹野 賢一

### 09 偕楽園ホーム 歴代施設長一覧

#### 10 偕楽園ホーム OB より

小室 節子

#### 11 偕楽園ホーム OB より

向 晃良

### 12-13 ～職員クロストーク～

5年の月日を振り返り

介護職員 又吉彩香

介護職員 佐藤佑哉

### 14 ご寄付・ボランティアのご紹介

私のボランティア活動

栄養管理士のお食事レシピ

### 15 介護の相談箱／編集後記

### 16 Column ①・②

イベントスケジュール

地域交流会（万講座）の開催

発行／社会福祉法人 一誠会

〒192-0005 東京都八王子市宮下町983番地

TEL: (偕楽園ホーム) 042-691-2830

(初音の杜) 042-691-8289

(第二偕楽園ホーム) 042-691-0913

(高齢者あんしん相談センター大和田) 042-649-3280

(八王子市高齢者在宅サービスセンター中野)

042-634-9615



## 現 社会福祉法人 五常会 常務理事・事務局長

むかい あきら  
向 晃良



偕楽園ホーム開設から1年遅れで入職した私は、福祉・介護に関して全くの素人でした。そんな私に対し、当時の新谷理事長や佐藤施設長より、福祉を語るには障害、貧困などからも学べと「山谷」「駆け込み寺」で泊まるなど、あちこちに連れていかれました。当時、お年寄りにはベッドの上で安静にという考え方が主流を流していました。「そういう体制への疑問を持て」がスタートラインでした。「偕楽園ホームは死ぬために入ってくるのではない。生き抜くために利用するのだ」という理事長の考えのもと、在宅の普通の暮らしの継続。酒が飲めて、自分のしたいことをして死ぬ。開放的で、「自分が今入っても暮らせるホーム」というのをコンセプトにしていました。

朝日新聞 2010年9月21日



新谷氏のご紹介で30年間続いた敬老のお祝いが掲載されました

そうしたコンセプトから、バイキング食、オムツ外しや随時交換、言葉遣いなど、利用者が主人公の「生活の場」をと改革を進めるとともに、毎日の喫茶・認知症対応や全員の離床にも取り組みました。また、家族関係が希薄の方の葬送は、利用者・職員でと家庭の代替えとなりました。開設以来、偕楽園ホームが取り組んできた、一人ひとりへの権利と尊厳の種が、皆様の積み重なる努力でさらに大きく花開いているのを嬉しく思います。



偕楽園ホームの名前の由来とおり、「皆が楽しむ場所」としてケアに取り組んできました



偕楽園ホームの屋上で開催された納涼祭には、多くの方々が参加されました

## 偕楽園ホーム 四代目施設長(1996.12～1999.3)

こむろ せつこ  
小室 節子



昭和11(1936)年に相模原で生まれた私は、当時保土ヶ谷にあった神奈川栄養短期大学の栄養科(現神奈川県立保健福祉大学 栄養学科)を卒業後、病院にて管理栄養士として2年間の勤務の後、出産を機に退職。その後しばらくは主に専業主婦として過ごしていました。が、昭和57年に縁あって偕楽園ホームに管理栄養士として働き始めました。当時、偕楽園ホームの施設長であった佐藤園子さんから食事改革を任せられ、『温かいものは温かく』や、当時では珍しかったバイキング方式の採用など、「ご利用者に喜んでいただきたい」の一心で管理栄養士の仕事に向き合っていました。現在においても偕楽園ホームをはじめ、一誠会全体で

利用者の食事に対するこだわりは今も生き続けており、大変うれしく思っております。管理栄養士としての姿勢が評価されたのか、平成8(1996)年に偕楽園ホームの施設長に任命されたのですが、施設運営に関しては全くの素人であり、周りの方の協力なくしては務めることはできなかつたと感謝しております。介護福祉において一番大切なことは「ふれあい」であると私自身は考えております。人を介して、食事を介して、職員とご利用者、また、職員同士がふれあうことで相互理解が生まれ、それによって、より質の高い介護につながるのではないのでしょうか。現在、私はボランティアとして一誠会とのご縁が続いておりますが、こうしたご縁も



退職後もボランティアとしてご利用者と関わっています(ご利用者のお出かけツアーにて)

新谷先生の『先人の知恵を生かそう』というお考えから、私に活動の場を与えていただけていると感謝しております。また、偕楽園ホーム開設45周年の歴史を紡ぐ中に関れたことを誇りに思うと同時に感謝の念に堪えません。現在のスタッフや未来の仲間たちが、さらなる歴史を紡いでくれることを願ってやみません。最後になりましたが、偕楽園ホーム開設45周年、本当におめでとうございます。



偕楽園ホーム 創立45周年記念  
～職員クロストーク～

5年の  
月日を  
振り返り



社会福祉法人 一誠会 40周年記念号において、若手として登場して貰った介護士の又吉さん(旧姓:田名部) 彩香さん(28)と、佐藤 佑哉(26)さん。  
前回から5年の月日が流れ、お二人とも中堅と呼ばれる立場となりました。今回改めてお二人に登場していただき、5年間での変化について語っていただきました。

— 先ずはお二人の一誠会での経歴をお聞きます！ —

**佐藤** 2018年4月に一誠会に入職し、介護士として、現在8年目になります。

**又吉** 私は2015年の4月に入職してから、介護士として10年が経ちました。

— 5年前の一誠会40周年記念誌でもお二人は誌面に登場していたと思いますが、この5年間で何か変化はありましたか？ —

**佐藤** 5年前は偕楽園ホームに所属しており、入職2年目でした。

その後、第二偕楽園ホームに異動となり、(第二偕楽園ホームで)4年が経ちました。

**又吉** 私は入職以来、ずっと偕楽園ホームで職場は変わりませんが、個人的には結婚・出産という、大きな変化がありました。

— 佐藤さんは偕楽園ホームから第二偕楽園ホームと職場が変わりましたが、違いはありますか？ —

**佐藤** 従来型(多床室)の偕楽園ホームに比べ、第二偕楽園ホームは地域密着型(個室)ユニットタイプということで、対応するご利用者の規模の違いがあります。

職場が変わった当初は不安もありましたが、働きやすさは変わらなかったのです、すぐに慣れました。

— この5年間で、自分自身が仕事の中で成長できたことはなんですか？ —

**又吉** 以前よりご利用者に対し、積極的に話しかけることができるようになったと思います。

5年前はまだ少し苦手意識がありましたが、今ではご利用者と話すのが好きになりました。

**佐藤** 5年前に普通科の高校を卒業しての入職2年目だったので介護のことは何も分からず、当時は言われた仕事をこなすだけで精一杯でしたが、今は周りの動きを見て、仕事を回せるようになってきたかなあと思っています。



— これから仕事でやりたいこと、チャレンジしたいことなどがあればお聞かせください！ —  
**佐藤** チャレンジしたいこととしては、ご利用者に喜んでいただけるイベントを自分で

企画・発信していきたいと思っています。

また、仕事に関しては、介護士としてまだまだ覚えるべきこと、やるべきことが沢山ありますので、今はまだできる限り現場の最前線でご利用者に関わっていきたいと考えています。

**又吉** 偕楽園ホームではワンフロア50名のご利用者がいらっしゃるのですが、その方々のやりたいことや食べたいもの、様々な夢や希望を叶えてあげたいというのが私のやりたいことです。



— これから介護の仕事を志す方に向けて、介護の魅力ややりがいについてメッセージをお願いします！ —

**佐藤** 介護職って、ご利用者との会話一つをとっても相手の方が何を望んでいるのか？、どういうことを話したいのか？といったことを、相手の方の性格も踏まえ、場面に合わせ臨機応変に会話を重ねて理解していかなければならない仕事だと思います。



を常に心がけることで、ご利用者から感謝をされ、さらに自分自身の成長にもつながる魅力ある仕事だと思います。

**又吉** 佐藤さんが言うように、そうした会話のなかで、人生の先輩だからこそ知っている物事や考え方を聞けるといえるのは、自分と同世代の人より知り得る機会も多く、自身の人間性を高められるというのは他の職種ではなかなか得ることのできない仕事だと思います。





## 介護の相談箱

## 特別養護老人ホームとは

### Q 特別養護老人ホームはどのような施設ですか？

**A** 常に介護を必要とする方に対して、入浴や食事など日常生活の支援や機能訓練、療養上の世話を行うことを目的とした施設です。ほかの入居型施設に比べ、食費や居住費に減額を受けられる制度があり、居室の形態によっては費用を抑えられる場合があります。24時間体制で介護を受けられることが特徴で、入所対象は原則「要介護3以上の認定を受けた65歳以上の方」となっています。

一誠会では、2つの特別養護老人ホームを運営しています。八王子市外の方も利用できる多床室の「偕楽園ホーム」(定員100名)と、八王子市内の方を対象とした全室個室の「第二偕楽園ホーム」(定員29名)です。どちらも看取り介護の体制を整え、人生の最期を安心して過ごせる施設です。

※広報委員会では、皆様から事業所や記事に関するご意見、ご質問をFAXかメールで募集しています。FAX:042-691-8288 メール:info@kairakuenhome.or.jp

発行:社会福祉法人一誠会  
発行日:2025年11月15日  
発行人:鈴木康之  
編集人:鷹野賢一  
住所:東京都八王子市宮下町983番地



### 編集後記

今号では、特別企画として法人創設者・新谷義克先生の寄稿文を掲載しました。

学生時代にラグビーで培われた「One for all, All for one」の精神。新谷先生はこの言葉を、介護の現場や組織づくりにも通じる信念として、法人経営の根底に据えてこられました。

「みんなは一人のために、一人はみんなのために」。その想いが、福祉に携わる私たち一人ひとりの背中を押し、今日の一誠会の礎となっています。

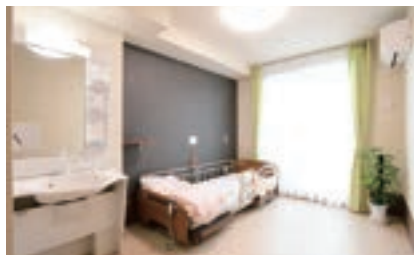
“福祉は個ではなく、チームで育てるもの”。改めてその原点に立ち返り、日々の実践の中で理念を体現していくことの大切さを感じさせてくれる寄稿でした。

これからも“全員参加の福祉”を合言葉に、心をひとつに前進してまいります。

社会福祉法人一誠会 常務理事 水野敬生



## 【サービス付き高齢者向け住宅 第二偕楽園ホーム】



## 入居者募集中

サービス付き高齢者向け住宅は、高齢者が安心して暮らせるよう配慮された住環境と安否確認・生活相談といったサービスが付いたバリアフリー構造の高齢者住宅です。

月額費用: 11万7,540円/月 敷金、礼金は不要です。  
(家賃6万円、共益費3万0,540円、支援費2万7,000円) 別途食費5万3,400円  
部屋数: 12室(全面個室 各18.63㎡)  
居室設備: 洗面、トイレ、収納、エアコン、ナースコール、スプリンクラー  
入居要件: 60歳以上の高齢者、要介護認定を受けた60歳未満の方  
※介護サービスを受けられる場合には別途料金が発生します。

詳細は、ホームページをご覧ください。下記お問い合わせまでご連絡ください。  
【お問い合わせ】  
社会福祉法人 一誠会 第二偕楽園ホーム  
〒192-0004 八王子市加住町1丁目18番地  
TEL:042-691-1866 FAX:042-691-1870  
担当: 高橋

## 偕楽園ホーム ホーム喫茶 岡部トシ枝さん



今回は、偕楽園ホームで活動いただいている岡部トシ枝さんをご紹介します。活動は、ホーム喫茶のほか、初音の杜でも大正琴を披露いただくなど、一誠会では10年以上にわたり活動を続け、地域との懸け橋になつてくださっています。



岡部さんには、ご利用者の笑顔があふれる温かな時間を届けていただいています

## 管理栄養士のお食事レシピ

魚肉ソーセージの旨味が溶け出したシャキシャキの小松菜炒めに、目玉焼きをのせた食べ応えのある一品です。たんぱく質、ビタミン、ミネラルをバランス良く摂ることができます。

### 魚肉ソーセージで巣ごもり卵

#### <材料>

魚肉ソーセージ ----- 1本  
卵 ----- 1個  
小松菜 ----- 1.5束  
とろけるスライスチーズ ----- 1/2枚  
油 ----- 少々  
トマトケチャップ ----- 少々  
青のり ----- 少々



#### 作り方

- ① 小松菜をよく洗い、食べやすい大きさに切ります。フライパンに油を入れ、強火で炒め、しんなりしたら火を止めます。
- ② 魚肉ソーセージの両端を残し、中央に切り込みを入れます。
- ③ フライパンに油をひき、②の魚肉ソーセージを入れ、切り込みを菜ばしで広げながら①の小松菜を中に敷き詰めます。その上に生卵を割り入れ、ふたをして中火で焼き、周りが固まってきたら水を加えて蒸し焼きにします。
- ④ 焼き上がったら、とろけるスライスチーズをのせ、溶けたら火を止めます。
- ⑤ 器に盛りつけ、お好みでトマトケチャップと青のりをかけて完成です。



## 御礼 (8月1日～9月30日)

### ボランティアのご紹介

青木典子 天辰寿子 雨宮千代野 伊藤裕子 伊藤涼子 稲垣輝彦 植松玲子 鶴沼世里子 遠藤幸子 遠藤由利子 及川紀子 太田健子 大塚幸子 岡部トシ枝 長田百々代 小形和子 狹島孝子 株式会社オリバー 嶋田昇一 金澤とみ子 川久保菊栄 倉吉稔 小林加珠 小林加代子 小林智 小室節子 佐藤隆志 佐藤洋子 澤田圭子 清水道子 七五三掛久美子 須崎幸男 須藤誠 高木章子 鷹野広美 立川利子 爲永行雄 対中義雄 千葉康子 塚口真弓 塚谷真奈美 東海林喜久子 中村和子 中村幸江 長谷川康子 羽田ちえこ 橋本順子 橋本正子 林隆太郎 パラマウントベッド株式会社 小川健太 平川晶子 平野勝 藤波治子 福士定明 松田聡子 Evisita support team 宮下唯子 保存会 宮下町会 村上悦子 村上宣也 村上正人 餅朋子 茂木恵美子 谷坂裕子 ユニチャーム株式会社 小林らら花 ユニチャーム株式会社 増谷雪子 湯本つね代 吉井かず美 吉田志織 吉田たけ子 若松八重子 ワタキューセイモア株式会社 森川直哉 渡辺欣也 敬称は省略させていただきます。

### ご寄付のご紹介

アオイ薬局 岡部章臣 片岡潮 株式会社アイテックプロ 代表取締役 新井一美 株式会社サンメディアサービス 代表取締役 中澤義昭 源生真一 工藤井上 井上義行 櫻井いづみ 三和興業 有限会社代表取締役 久保田綾 中野団地自治会 はちまのサポート 平木に美 マルチガス東京株式会社 代表取締役 滝島徳久 三杉清 水野敬生 宮下町会 有限会社フオーテック 理美容 植松 和田定雄 敬称は省略させていただきます。